

# 一人ひとりを大切にする具体的な保育

## 3

### 遊ぶ「時間」を保障する

ユリア  
愛知県碧南市・へきなん保育園園長

前回、「部屋の中にたくさん遊び道具を準備しました」と書きましたが、そんなにたくさんものを入れたら、本当にお部屋が散らかってしまうのではと心配になりませんでしたか。

#### 1 保育者が片づける

私の園の現状はというと、散らかっているという状態ではありません。なぜかというと、それは保育者が基本的には片づけているからです。

子どもの興味が移って遊んでないものは先生が片づけます。しかし、子どもをよく見ているのなら、一つの遊びに飽きて、次の遊びに移るところで声を掛けることができ

きます。「もう遊ばないの？じゃあ、元に戻しておこうか」と。そして、一緒に片づけたりすることもあります。

この、保育者が片づけるということに対して疑問に思う方もいるのではないのでしょうか。「そんな、先生が片づけてしまったら子どもたちの片づける機会を奪ってしまったのでは」といった意見も耳に入ってきました。しかし、「片づけなさい」といって片づかせようとしている場合は、子どもは片づけていない保育者を見て、なかなか片づけをしない状況になりがちです。まめに片づけている保育者の姿を見て、片づけるということが無理なく学んでいくようです。

乳児期には、特徴的に目の前のものに興味があり、気持ちが次の遊びへと移って夢中になって遊んでいくということがあって、忘れられた玩具については保育者が片づけるのです。

#### 2 子どもなりのわけ(理由)

たくさん玩具を出したけど、危ないのでもたしまってしまったといったことを聞くことがあります。子どもたちは、危ないことをしようと思っっているのでしょうか。なぜ、お友だちを叩いてしまったのでしょうか。そうなるしてしまうのには、子どもなりのわけ(理由)があったのではないのでしょうか。

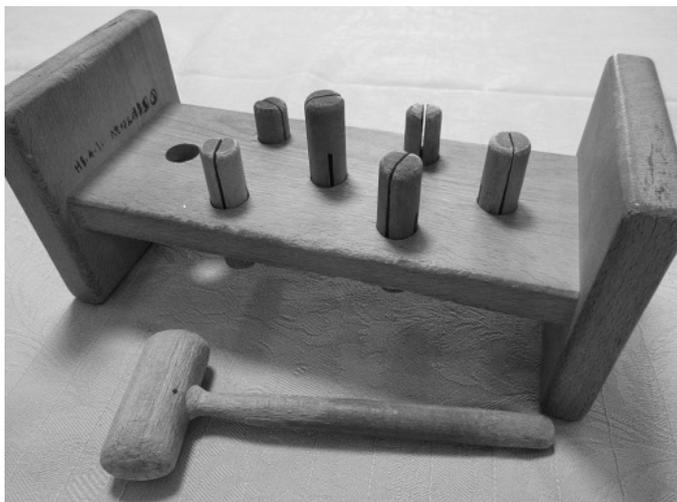
大勢の子どもに対して充分な量の玩具が準備されてなかったり、その使い方が丁寧に伝えられてなかったり、それぞれの子どもの遊びが守られてなかったり、考えられることはいろいろあります。そのいろいろあるわけ(理由)を考えることが、子どもに寄り添うことになると思います。

そのいろいろなわけ(理由)の中に発達の問題がかかわっていることもあります。そうした場合、往々にして、自己認識が弱い場合が多く、投げる行為自体は感覚遊びとしての行動であったりします。全部の玩具を出してしまう、全部投げてしまうなど、私の園でもそういったことがあります。そうした場合にどう対応していたかということ、保育士がひたすら片づけるといった対応をしていました。

他の子どもたちは、2歳児ながら、その

●角が取れて丸くなった木づち

平成8年4月1日から使用されています。22年間子どもたちが遊び続け、その間木づちで他の子を叩いたという報告はなかったかな。子どもたちの手首や固有覚の発達を支え続けてきた玩具です。



子の行為をそっくりそのまま受けとめていました。そうしているうちに、その状態は通過していきました。

一人ひとりを大切にすることを実践する時には、発達に特徴がある子にとつても、ない子にとつても、とてもおもしろいと思える遊びの環境を整えていくと、発達上の特徴の有無にかかわらず、それぞれの最大の発達を支えることになっていきます。

### 3 子どもが主体的に遊ぶ時…

子どもが主体的に遊ぶ時、保育士はどつ

かかわったらいのでしょう。

以前、私の園では、大きな声を出している保育者がよい保育者である、というような価値観を持っていました。また、子どもと一緒に遊ぶことがよいとされてきました。しかし、子どもの主体性を大切にし、子どもの遊びを守るといふ視点を持つ時、保育者が主導しての遊びでは子どもの主体(思い)を大切にしていることにはなりません。子どもは遊ぶ力を持っています。以前、私の園では無意識のうちに、「この人たちは何もできない弱い人間なので、遊んであげなければならぬ」という思いが強く働いていました。つまり、結果として「すべての時間を保育者が管理し、何かしてあげなくてはいけない」という思い込みが強くなったようです。それでは、子どもの遊びにかかわらないで、見守るだけでいいのでは、ということも違います。その場合の場で、言葉を掛けます。

子どもが主体となって遊んでいるかどうか、簡単に見分ける方法があります。それは、保育者がその場を離れた時にもその遊びが継続しているなら子どもが主体となつて遊んでおり、その遊びが終わってしまつてよつなら保育者が主体となつて遊んであげていた、ということになります。子どもの遊びを守るといふ視点を持ちながら、その

遊びが発展したり深まったりするような動きかけをしていきます。また、言葉を習得していく時期であるならなおさら、たくさん言葉掛けをしていくことで、その発達にも目覚ましいものが見えてきます。

ただ、ここでまた、掛ける言葉のわけや、その言葉が子どもを支える方向の言葉なのか、させる方向の言葉なのかも気にかけてください。簡単に基準を示すならば、指示、命令になっていないか、何かを「させる」といった意識になっていないかどうか。伝える必要のあることも、なぜそうなのか、やはり「理由」を伝えます。小さな子にも同様に伝えます。

### 4 遊ぶ「時間」を保障する

このようにして、子ども一人ひとりが夢中になって遊ぶ時間・空間・道具を保障しながら、保育者は遊びを守るといふ意識を大事にしていきます。

これまで、空間と道具について述べてきましたが、次に、「時間」を保障するとはどういうことを述べていきます。

一日の保育の中で、子どもたちに、何回「待ってね」という言葉を使っているでしょうか。私の園では以前、何かの前、何かの後には必ず排泄の時間があり、その都度一斉で行動するので、一日の中で待つて

## ●トイレのパネル

コルクボード2枚を蝶番でつなぎ、素敵な布を張って作ったパネル。  
ほんの少しの心遣いで子どものプライバシーを守れます。



いる時間が何回もありました。一人ひとりを具体的に大事にする保育を実践する時、この「待ってね」の時間が全部遊びの時間に変わります。

食事の時も、一人とか二人とかずつで進めていきますが、他の子は待っているのではなく遊んでいるのです。また外に出る時も、外遊びから入室する時も一斉に行動するのではなく、保育者がきちんと手助けできる人数の子とも動くので、必要な手助けを丁寧に行うことができます。そして、他の子は今まで「待ってね」といって

た場面でも、みんな遊んでいるのです。排泄の場面でも、一斉に声を掛けてトイレに行っていた時には、やはり「待ってね」が長い時間を占めましたが、トイレにも一人ひとり行き、その他の子は「待ってね」の時間も遊んでいる時間になります。

こうした小さなことの積み重ねで、今まで一斉保育をしていた時より、多くの時間を遊びの時間として保障できるようになりました。結果として、子どもたちは十分に遊び満足しているようです。この遊びの時間を保障し守っていくことは、子どもの最大の発達を促し、最善の利益に無理なくつながっていきます。

## 5 排泄の「時間」について

排泄について今サラッと述べましたが、詳しく述べていきます。排泄の時には、一人ひとりに保育士が丁寧に付き添います。以前は、保育者が計画した一日の流れに従って「はい、トイレの時間ですよ」と皆が一斉におまるに座ったりしていました。今思えば不思議な光景だと思えます。排泄は個々の生理現象であって、まさに個々のニーズが様々であるはずのものなのに、保育者の立てた計画に合わせて、みんな「行かせる」ということをしていたのです。そして、「出ない」という子もおまるに誘い、

頑張つて出すように促したりしていました。さらに1、2滴出た子に「えらいね」などといったりしていました。一人ひとりを大切に具体的な保育とは真逆な状態だったと思います。

そうした状態から、一人ひとりをトイレに誘い、ドアがある場合はドアも閉めていきます。おむつの場合は、一つずつの行為を言葉にしながら、目を合わせて丁寧に替えています。子どもができるところは待ち、手助けの必要なところは「スポンの後ろを上げるのお手伝いするね」などと声を掛けながらします。おむつ交換の時には、一つひとつの行為を言語化します。「足をあげてくれる?」「おしりを拭くよ」「気持ちがいいね」などと声を掛けると、0歳の子でも足をあげたりして協力してくれます。こうしたやりとりをしながら、親以外の大人(保育者)との信頼関係を築いていく大事な大事な時間になっていきます。子どもたちにとっても楽しい時間となり、トイレに誘えば喜んで行く姿が見られます。では、どういったタイミングで誘っているかという点、だいたい尿意をもよおす頃に声を掛けています。子どものサインをよく見ること、どれくらいの間隔で排尿しているか、認識または確認することが必要です。一斉ではなく、一人ひとりに対応す

●写真①② 1歳児クラスの玩具。子どもが目で見え選び、取り出しやすいように、日常的に整理しています。



①

ると、結果としておもつても早くはずれるようです。

一斉にトイレへ誘っていた時にも、保育者はよかれと思ってまめに誘っていました。また、なぜか失敗させてはいけないといった思いが強くなったと思います。しかし、まめに誘うことでかえって尿意を感じる機会を奪っていたのかもしれない。

以前はおむつ交換の場所は大抵トイレの近くで、寝転んで替えていました。今は場所を決めて、そこに少し目隠しになる衝立を準備し、小さな子どもでもプライ

ベートな部分を守る視点を持っています。ささやかなことですが、こうしたことが具体的に一人ひとりを大切にすることだと思っています。

ここでまた疑問がわいてきませんか。1対1で排泄にかかわることはいいことだけれど、その間、他の子どもたちはどうしているの？と。答えは、もちろん遊んでいるのです。やはり一人ひとりが夢中になって遊んでいる姿があるので、育児（排泄）にかかわっていない保育者が余裕を持って子



②



●部屋のソファでくつろぐ1歳児。

どもたちを見ています。

一人ひとりを大切にするといった時、子どもにとっての手助けが必要な時に丁寧にかかわって手助けをする。そのことが、保育者が具体的にできることです。

子どもにとって手助けが必要なところは、主に食事、排泄、衣類の着脱の場面です。これまで、食事と排泄について述べてきましたが、次回は、衣類の着脱の場面にについて述べていきたいと思います。